

在宅医療と介護の今

在宅医療地域ケア会議通信

医療と介護の良い関係が在宅療養の安心に!

医師会が全面協力— 地域ケア会議がスタート。

住み慣れた自宅で病気の治療や介護を受けながら自分らしく生活したい。そうした要望に応えようと今年4月、「杉並区在宅医療地域ケア会議」が発足しました。高齢化社会が現実になり、介護や医療が必要な高齢者が増加の一途をたどる中、医療、介護両分野が相互に連携して「地域包括ケアシステム」を支えるのが狙いです。医療と介護の間に生じがちな垣根を取り払い、双方が日頃からコミュニケーションを図ろうと動き始めました。

初会合は4月20日、杉並区医師会館（阿佐谷南）で開かれ、地域医療に熱心な医師やベテランの主任ケアマネジャー、ケア24の地域包括ケア推進員、行政関係者ら約50人が参加しました。今後、井草、西荻、荻窪、阿佐谷、高円寺、高井戸、方南・和泉の7地域ごとに



在宅医療地域ケア会議を年3回以上開いて、在宅医療を進めるに当たっての課題を明確にし、その解決策を検討することにしています。“実働部隊”となる企画運営会議（医師をリーダーとし、主任ケアマネジャー、地域包括ケア推進員ら5人程度で構成）が具体的な協議を進めます。各地域での具体的な取り組みをこの誌上でレポートしていきます。

7地域の リーダーの 医師

井草



近藤邦夫 医師

西荻



榎引邦亮 医師

荻窪



阿部正 医師

阿佐谷



加藤章 医師

高円寺



窪田茂比古 医師

高井戸



木暮大嗣 医師

方南
和泉

大蔵勝弥 医師

■「顔の見える」医療と介護の関係を築きたい― 杉並区医師会 藤多会長に聞く

地域包括ケアシステムづくりの中核となるのが「杉並区在宅医療地域ケア会議」。その推進役となる杉並区医師会の藤多和義会長に同会議の狙いや課題、抱負について聞きました。

●「地域包括ケアシステム」を支える

―「地域包括ケアシステム」や「在宅医療」の必要性についてはまだ十分に理解されていません。「いまなぜ在宅医療か」についてお話しください。

会長：約800万人の団塊の世代が75歳以上になる2025年には、医療や介護の需要が増え、病院、介護施設の病床数が不足します。一方で、多くの人が人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らしたいと希望しています。こうした状況に対応するために、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供しようというのが「地域包括ケアシステム」です。杉並区医師会としてはこのシステムを積極的に支え、地域のために貢献していきたいと考えています。

●医療と介護の垣根を取り払う

―そうしたシステムの構築には医療と介護の連携、意思疎通が欠かせませんが、実際には両者間に距離があるといわれています。現状はいかがですか。

会長：昔は往診先に保健所のスタッフやヘルパーさんも来られることもあり、「患者さんを診る」という同じ意識で対応していました。それが、介護保険制度により介護の専門性が高まってきたのは良いことですが、医療と介護がお互いに敷居の高さや垣根を感じている実情もあり、両者の連携が課題になっていると思います。

例えば主治医と長い付き合いの患者さんが脳卒中を起こした場合、主治医は病院に手術などの対応をお願いします。退院時には「リハビリが必要」など病院側の判断が主治医に伝えられ、主治医は患者さんの在宅療養をサポートしていました。いまは、病院側が退院後の対応を医療ソーシャルワーカーや地域のケアマネジャーに相談するケースも増え、主治医と患者の関係が疎遠になっている場合もあります。

●気軽に相談できるシステムを

―そうした関係を改善し、地域包括ケアを機能させるには何が必要でしょうか。



杉並区医師会 藤多和義会長

会長：お互いの「顔が見える」医療と介護の関係を築き上げること。それがまさにこの在宅医療地域ケア会議の狙いです。在宅療養の患者さんのケアについて、医療側も介護側も垣根を意識しないで自由に情報交換できるような態勢にするのが、患者さんにとって一番望ましいことです。ヘルパーさんやケアマネさんが主治医と見ず知らずだと、お互いに相談しづらいですね。医療側も介護側ももっと気軽に相談できるシステムを日常的に作っておくことが肝心です。

―杉並の取り組みは先進的だと思いますが、会長の今後の抱負・希望をお聞かせください。

会長：今回の取り組みは在宅専門の医師だけがやるものではなく、できるだけ多くの医師が参加し、介護関係者と連携を取っていく。そして患者さんが安心して在宅で暮らし続けられるように質の高い、かつ切れ目のないサービスを提供できるよう連携の仕組みを創り上げていきたいと思っています。



■ 最初の地域ケア会議は井草地域で ― 連携へ向け第一歩

7地域のトップを切って地域ケア会議を開催したのは井草地域。6月15日（月）の午後7時半、会場の八区区民集会所には43人が集まり、1時間半にわたって熱心に意見交換をしました。出席者は医師が12人、歯科医師2人、薬剤師2人、ケアマネジャーが14人、その他、企画運営会議のメンバー4人、ケア24の職員9人の多職種に及びました。

会議では6グループに分かれ、「高齢者と入院」というテーマで話し合いました。このテーマを設定したのは「医師もケアマネも関係していて派生する課題が多いので、話が展開しやすいため」（企画運営会議：地域包括ケア推進員）とか。

出席者が漏れなく発言し、意見を聞き合うワールドカフェ方式を採用。20分ほど話し合いをすると、各テーブルとも1人だけ残って、メンバーをシャッフルします。自己紹介が一巡してからは硬さも取れて、各グループとも活発なやり取りがスタート。初対面の医師とケアマネジャーの間で、本音を含めた会話が続きました。

在宅医療も行っている医師は「在宅の患者さんが入院する場合、ケアマネの皆さんは遠慮なく医師に電話してく

ださい。皆さんからの情報を参考に適切な対応ができるようになります」とアドバイス。また、あるケアマネジャーは「退院時も問題です。カンファレンス（医療関係者による協議）がない突然の退院や家族の理解がないままの退院になると、在宅で関わる際情報がなくて困ります。病院と在宅との連携、情報の共有が欠かせません」と訴えていました。

企画運営会議のメンバーが参加者に対して行ったアンケート調査によると、この会議の開催は大好評でした。ケアマネジャー側からは「先生（医師）と顔合わせができたことで、今後連携が取りやすくなりそうです」「先生方に気さくに話していただいて、心の壁がなくなりました」などの感想が寄せられました。

一方、医師側も「他職種の方々の本音が聞けて有意義だった」「医師として知らないことも知ることができた」と評価する声が多く、「顔が見える関係」構築へ向けた第一歩が踏み出せたようです。

井草地域の次回会議は9月の予定ですが、企画運営会議リーダーの近藤邦夫医師は「次回は病院の医師や皮膚科など他診療科の医師の参加を呼び掛けたい」と意気込んでいます。



■ ホットラインでつながっている安心感 — 訪問診療の現場を見る

5月下旬、訪問診療を専門に行っている阿部正医師に同行し、患者さん宅を訪れてみました。訪問したのは荻窪駅からバスで25分の閑静な住宅地の一軒家。阿部医師は小型自動車で駆け付け、診療バッグとパソコンを抱えて降りてきました。患者の松枝さん（100歳）は長女のひろ子さん（67歳）と2人住まいです。阿部医師は月に2回、訪問しています。

阿部医師が「どうも!どうも!」と大きな声であいさつしながら部屋に入ると、松枝さんはウサギ耳とピエロめがねを掛けて待ちました。これにはいきなり爆笑です。ひろ子さんのちょっとした仕掛けで、松枝さんの気分を明るくするための“特効薬”。「デイサービスに行くのを嫌がるときはこのめがねを掛けて鏡を見せると、本人も笑い出し、出掛けるようになります」。

阿部医師は松枝さんの血圧を測り、聴診器を当てて診察します。その間に「昼夜逆転はどうですか」「息切れは」「お通じは」と最近の具合についてひろ子さんに尋ねます。ひろ子さんは松枝さんの状態について事細かに報告し、阿部医師のアドバイスを受けます。

阿部医師は松枝さんの衣服を見ながら、「高齢者はただでさえ寒がりですから、(着込んで)汗ばまないように気を付けて」とひろ子さんに指示。服用中の薬もチェックしたうえで、「OKです。この調子で頑張りましょう!」



と松枝さんを激励しました。診療時間は約20分。阿部医師が「また来ますね」と言うと、「待ってま〜す」と松枝さん。阿部医師の訪問が嬉しい様子です。

松枝さんは昨年9月に100歳になり、国から長寿の祝状をいただいています。「さすがに年相応の認知症もあり短期の記憶保持が苦手で、耳も遠いけれど、今のところ生活に大きな差し障りがないのはありがたいです」とひろ子さん。訪問診療については「何と言っても私自身が楽です。通院していた時は母のペースに合わせて行動するのに大変疲れしました。先生とホットラインがつながっているという安心感がとても大きいです」と語ります。「施設への入居は、一人っ子の私がもう介護できないという状況にならない限り考えていません」ときっぱり。

「介護だけの生活では自分が潰れてしまいますので、できる範囲で自分が好きなことに没頭できる時間を持つようにしています」とひろ子さん。「在宅で介護しているのだ!私ってえらい!」と自分を褒めることが在宅介護を続ける秘訣だと明かしました。

★次号は平成27年9月に発行予定です。

杉並区在宅 医療相談 調整窓口

高齢者等の在宅医療をサポートするため、相談員が区民の皆様や医療・介護・福祉の関係者の皆様からの在宅医療に関する様々な相談に応じます。

- 担当部署名：杉並区保健福祉部高齢者在宅支援課
- 電話連絡先：03-5307-0782（直通）
- 受付日時：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前8時30分～午後5時